

青森県

フィールドスタディ型政策協働プログラム

オリエンテーション

2017年4月20日(27日)

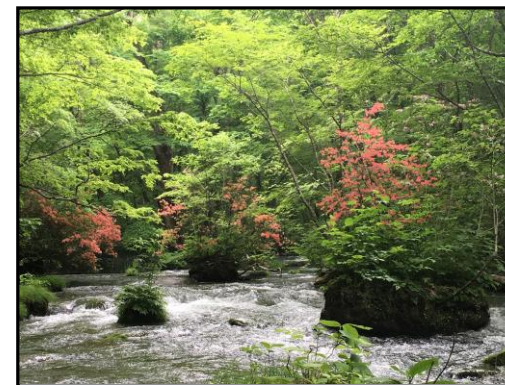


青森県「未来を変える挑戦」

三方を海に囲まれた青森県は、四季折々に美しい姿を見せる雄大な自然と豊かな風土に恵まれています。

春の弘前城の桜祭り、夏のねぶた祭りを始めとする伝統的な祭りや郷土芸能が今なお受け継がれ、日本一の収穫量を誇るりんごやにんにく、全国でも有名なマグロやひらめなどの山の幸、海の幸を活かした郷土料理や温泉も豊富です。

また、持ち家比率が高く、職場までの通勤時間が30分未満の方が過半数を占めるなど住環境にも恵まれ、職住近接の生活が可能であるほか、世界自然遺産である白神山地、日本最大級の縄文集落跡を示す三内丸山遺跡など観光・文化面でも充実した「時」を過ごすことができます。



奥入瀬溪流 三乱れの流れ



リンゴと岩木山



「青森県が現在取り組んでいる課題と政策」 ～強みをとことん、課題をチャンスに～

◆ 課題をチャンスに

①人口減少克服プロジェクト

社会減対策

◆ 持続可能な地域をつくる

連携しながら、人口減少(少子・高齢化)社会に対応します。

◆ 人口増加につなげる移住・定住促進

県内定着(特に若年層)と、首都圏からの転入を促進します。

◆ 交流人口を増やす仕組みをつくる

北海道新幹線、中国定期便など、新たな誘客チャンスを最大限活用します。

◆ 子どもを産み育てやすい環境をつくる

結婚や子育てについての環境整備と社会全体での支えあいを推進します。

□ 人口減少の克服の取組を強化

➢ 地域の未来づくりサポート事業

➢ 課題解決型外部人財獲得モデル事業

➢ 住んでよしの青森県！移住促進プロジェクト事業

➢ 北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業効果獲得事業

➢ あおもり出会い協働プロジェクト事業



地域の未来づくりサポート事業

～自然保護と利活用を両立する共生社会の地域づくり～

(受入地域:青森県十和田市)

【現状と課題】

◆ 高速交通網の整備と産業の変化

高速交通体系網の整備に伴い通過型の観光が増加し、観光客、修学旅行生等が減少し、ホテルの廃屋が林立する状態



◆ 地域交通機関の衰退

少子高齢化、人口減少が進む中、地域バス路線が減少し、通勤、通学、買い物弱者が急増

◆ 就学環境と医療機関の減少

人口減少に伴い、小中学校が統廃合・診療所の受診機会が減少

国立公園の再生に向けた満喫プロジェクトの取り組み



地域コミュニティの維持

【プログラム内容】

地域資源の発掘と街づくり団体との体験交流

事前に調査した現状、課題をもとに青森県の豊かな固有の自然を体験。まちづくり団体、地域住民との交流から自然と共生する課題と地域づくりの未来を探ります

【取組1】まちづくり団体に触れる 人との交流

■ 地域づくり団体の活動体験、児童生徒との体験交流を通じ、地域の課題と未来を探る



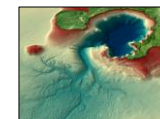
【取組2】地域資源の発見 自然・歴史・文化を知る

■ 十和田湖奥入瀬溪流及び八甲田地域を含めた自然・歴史・文化を知り、体験メニューを通して、地域資源の価値を掘り起す



【取組3】ローカル「知」の情報発信 地域おこしへ

■ 交流を通じた「人」の魅力、掘り起した地域資源をさまざまな機会・ツールを利用し発信する



【実施概要】

- 受入地域
青森県十和田市
- 受入人数(要調整)
2名～3名
- 受入期間 (応相談)
平成29年8月20日(月)から
平成29年9月20日(金)の間

- まちづくり団体、地域住民との交流をサポート
- 現地域内移動をサポート

【プログラム目標】

持続可能な
地域づくり



地域づくり(ビジョン)への
提案



課題解決型外部人材獲得モデル事業 サイクルツーリズムによる観光振興

(受入地域: 青森県五所川原市)

【現状と課題】

北海道新幹線開業を契機に

津軽半島地域の広域連携により、訪日外国人客をターゲットに誘客を推進。レンタサイクル拠点や案内表示の充実を図る。



地域の担い手の不足

関連団体の担い手高齢化や、外国語に対応する人材の不足により、取組の推進役が不在。事業のビジネス性に不安。

地域資源の評価と
ルートを活用するコンテンツの充実

新たなビジネスモデル構築へ

【プログラム内容】

段階を踏んだ中長期的ビジネスモデル構築を！

サイクルツーリズムの先進地の状況に照らし、地域との交流から、津軽半島地域の優位性（アピールポイント）と、中長期的なビジネスモデル構築を模索します。

【取組1】 どんなルート？ 観光資源の評価とルート化



- 地域資源の評価と組み合わせの提案
- ガイドや案内表示、多言語対応の必要性検討

【取組2】 どんな人がいるの？ 地域のプレーヤーとの交流

- 現地調査や地域住民との交流を通じた課題の把握
- 地域の思いが反映されたビジネスモデルの検討

【取組3】 どんな魅力を発信？ 情報発信手法の検討

- 津軽半島ならではの魅力の発信方法を模索

【実施概要】

- 受入地域
青森県五所川原市
- 受入人数(要調整)
2名～3名程度
- 受入期間 3～4週間程度
平成29年8月20日(月)から
平成29年9月20日(金)の間

- 地域づくり団体、住民との交流
機会をセッティング
- 現地スタッフが輸行をサポート

【プログラム目標】

担い手確保も見据えた
中長期的なビジネスモデルの構築

稼げる地域の
実現へ



課題解決型外部人材獲得モデル事業 伝統工芸 南部菱刺しの価値再構築

(受入地域:青森県五戸町)

【現状と課題】

知名度向上の一方で...

近年、クラフト製品や民芸品
人気が高まり、南部菱刺しも知
名度が高まった一方、形のみ模
倣した安価な“菱刺し風”商品
が出現している。



収益性低下から後継者難に

文様の意味や文化的価値が置
き去りになり、デザイン性のみ
が消費される状況。

→作り手の収入減少

→後継者が育ちにくい土壤に

価値を再構築するには？

価値を正しく伝えるには？

【プログラム内容】

課題の本質を探り、価値を伝える手法を提案！

地域の作り手から、伝統的な南部菱刺しの歴史や意味
合い、製法等を学ぶほか、流通や販売、小売りの現場等、
の様々な段階で、どのように課題が生じているのかを探
り、価値の再構築とその伝達手法について検討します。

【取組1】菱刺しとは何か 作り手の思いと伝統に触れる

- 作り手から、菱刺しの歴史
や伝統的な技法等について
学ぶほか、自らその技法を
体験し、作り手の思いに触
れます。



【取組2】課題の源泉を探る 流通・販売・消費過程の調査

- 実際に作り手の気持ちを汲み取った次は、どこに課題が生じる過
程があるのかをヒアリング調査します。

【取組3】課題の整理と解決策の検討

- 南部菱刺し以外の刺繍技法では、どのように価値を伝えているか、
周辺情報を探りながら、課題解決手法を模索します。

【実施概要】

- 受入地域
青森県五戸町
- 受入人数
2名～3名程度
- 受入期間 15日程度
平成29年8月20日(月)から
平成29年9月5日(火)ごろ

- 菱刺しの作り手や各段階への
ヒアリングをサポート
- 地域内移動をサポート

【プログラム目標】

南部菱刺しの価値再構築、
価値再生産の手法提案

持続可能な
仕組みに



～東大生へのメッセージ～

「皆さんの声」を青森県の「地域づくり」にお届けください。
心よりご応募をお待ちしております！

十和田市の自然・歴史・まちづくり団体



十和田湖



ヒメマス



十和田バラ焼き

地域の魅力・課題を事前調査お願いします
必要資料は随時要望により提供いたします

五所川原市とその周辺



この建物は何？



津軽鉄道



津軽三味線の本場

五戸町とその周辺



馬肉料理



紅玉りんご



探してみてください



～自然保護と利活用を両立する共生社会の地域づくり～ 受入地域(青森県十和田市)紹介動画について

○受入エリアの紹介について

◆YouTube動画

タイトル: 「～水と森が生命(いのち)を紡ぐ～ 十和田湖「深」発見の旅」

(30分) <https://www.youtube.com/watch?v=RTypKqZwEEo>

「見て・触れて食べて 十和田湖魅力再発見の旅」

(18分) https://www.youtube.com/watch?v=_X83syikdfI

上記タイトルで検索ください。

◆青森県観光情報サイト アプティネット

<http://www.aptnet.jp/>

◆青森県基本計画未来を変える挑戦 プロモーション編

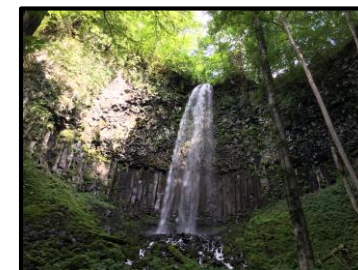
<http://www.pref.aomori.lg.jp/kensei/seisaku/promotion.html>



蔦沼



苔玉づくり



双竜の滝



ムーンライトカヌー

石川県

フィールドスタディ型政策協働プログラム

オリエンテーション

2017年4月20日・27日



石川県 「自然豊かな能登の振興」

北陸新幹線金沢開業(2015年3月14日)

- 開業に向け、県民挙げて伝統・文化などを磨き上げ
- 新幹線利用者数が**約3倍**となるなど、多方面で想定を上回る開業効果
- 金沢のみならず、能登・加賀を含む県内全域に波及



白米千枚田

世界農業遺産「能登の里山里海」

- 2011年6月に国内で初めて認定
- 人々の暮らしに根差した多くの資源が一体的に評価
 - 伝統的な農林漁法(千枚田、海女漁など)
 - 農耕にまつわる文化・祭礼(キリコ祭り、あえのことなど)
 - 伝統的な技術(輪島塗、揚げ浜式製塩など)
- 認定も契機に、多くの農業法人が能登半島へ新規参入

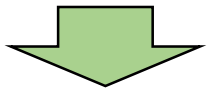


キリコ祭り

石川県が現在取り組んでいる課題

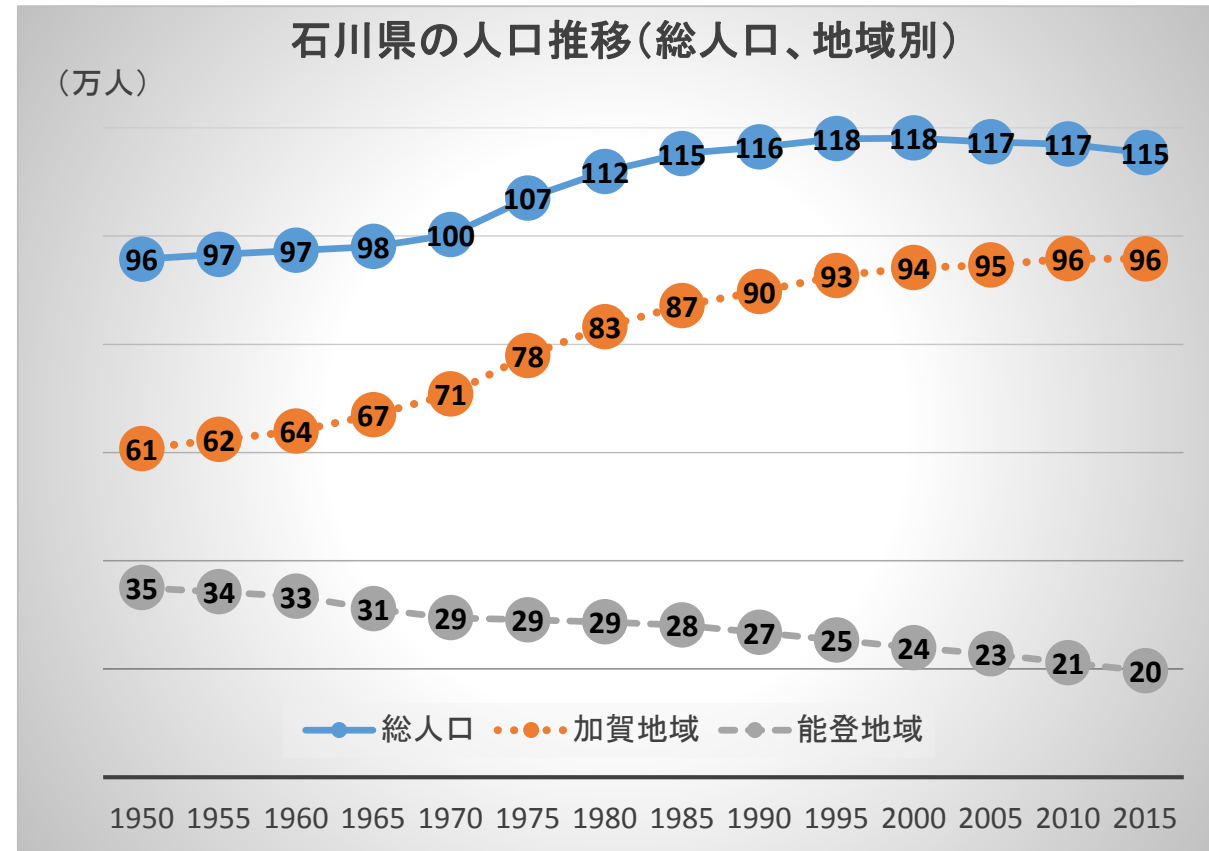
人口減少対策

- 石川県では、2005年の国勢調査で初めて人口が減少
- 特に能登地域は1950年をピークに人口減少が続き、県内の中でも特に人口減少、少子高齢化が進行
- 国の推計では、能登地域の人口は、2060年に7.9万人まで減少(2010年比▲42%)



<能登地域での主な施策>

- 世界農業遺産などの観光資源の磨き上げ、「のと里山空港」「のと鉄道(観光列車)」「のと里山海道」などを活用した観光誘客
- 世界農業遺産を活かした企業誘致・農業参入の促進、「能登牛」「のとてまり」をはじめとした農林水産物のブランド化 など



東大生と共に取り組む政策プログラム(全体概要)

石川県北部の奥能登地域に約1か月(8月20日頃～9月20日頃)滞在し、珠洲市・能登町での現地活動を通じ、それぞれの課題解決策を提案していただきます。
(具体的なスケジュールや役割分担は、参加人数や学生の希望を踏まえて決定します)

活動地域	活動内容	活動期間
珠洲市	奥能登国際芸術祭の現場から里山里海地域の未来を展望し、交流人口の増加に向けた事業展開を提案する	うち 2週間程度
能登町	2019年の整備を目指す「イカの駅」で提供する地域資源をイカした体験メニューなどの仕組みを提案する	うち 2～3週間程度



このほか、地元の第3セクター「のと鉄道」において、能登地域への観光誘客として期待されている観光列車「のと里山里海号」について、能登の資源を活用した魅力向上策の意見交換を予定しています。(期間調整中)

(参考URL) <http://satoyama-satoumi-go.net/>



東大生と共に取り組む政策プログラム

1. 芸術祭の現場から里山里海地域の未来を展望する

奥能登国際芸術祭

珠洲



SUZU 2017
OKU-NOTO TRIENNALE

活動地域	石川県珠洲市(能登半島のさいはて)
活動内容	初開催となる「奥能登国際芸術祭2017」のサポーターとして運営の現場に入り、来訪者へのガイド等に携わるとともに、里山里海資源の調査、住民との交流等を行う。また、事前・事後調査を通じて地域特性をより深く理解し、東京との対比をふまえた珠洲市の魅力や持続可能な地域のあり方について探究する。
滞在期間	2017年9月3日～9月20日(予定)
プログラムの目標	来年以降の「関係人口」増加に向けた事業展開の提案
参考URL	奥能登国際芸術祭2017 公式サイト http://oku-noto.jp/

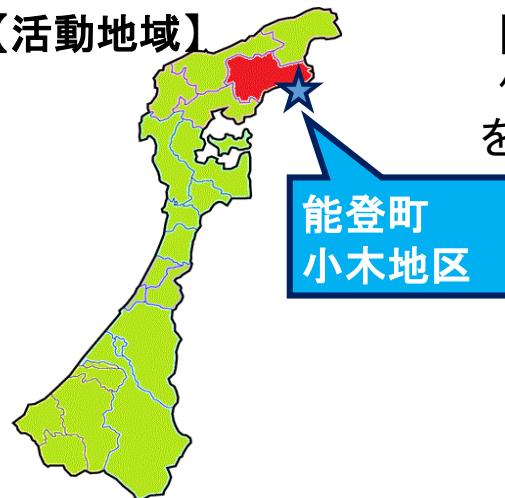


東大生と共に取り組む政策プログラム

2. 「イカの駅」で提供する地域資源をイカした体験メニューなどの仕組みを提案



【活動地域】



【活動内容】

住民と交流を図りながら、住民が気づいていない魅力ある地域資源を発掘し、それらを活用した体験メニューなどを提案します。

発掘	よそ若者視点で地域資源を探す 例) 住民へのヒアリング、まち歩きなど
体験	地域の伝統・食・文化を体験し魅力を知る 例) 九十九湾でのスノーケリング・祭り体験（絵描きなど祭りづくりから）・小木地区の食文化など
対話	よそ若者視点で気づきを、住民との対話の中で伝え、住民に地域の魅力の再認識を与え共有する 例) 住民とのワークショップ
まとめ	地域資源の発掘、体験、住民との対話交流を通してイカの駅で提供する体験メニューなどの策定、運営の仕組みや情報発信の提案をまとめる

【活動期間】

8月20日～9月20日のうち3週間

【宿泊場所】

小木地区にある移住体験の家
(中古住宅一部改修)
※自炊

能登町小木地区は人口2,500人の港町で、函館、八戸と並ぶイカの三大漁港として栄えてきました。しかし、近年、人口減・地域経済の縮小が課題となっています。この課題の解決に向け、地区にある日本百景の一つに数えられる九十九湾（リアス式海岸）に、交流人口の拡大と地域の活力を取り戻すため、観光交流センター「イカの駅」の整備を進めており、住民が運営方法等を検討しています。¹⁴

東大生へのメッセージ

【珠洲市】

奥能登・珠洲の魅力を再発見する芸術祭の現場に、“マニュアル”や“方程式”はありません。

あなたの知性と感性をフルに発揮して今ここにあるリアリティを体感し、これからの珠洲について提案して下さい！

【能登町】



能登の里海には、未開拓の豊富な地域資源と**絶対に負けられない戦い**（地域課題）があります！

地域資源を発掘、体験しながら、能登の里海を満喫しそして、住民と一緒に（地域課題と）戦ってくれる**イカ**した仲間を探しています！！

是非、ご参加ください！

福井県

フィールドスタディ型政策協働プログラム

オリエンテーション

2017年4月20日(27日)

あらかじめ、
幸せだったらいいな。

幸せ度
いちばん
福井県

福井県「幸福日本一ふくい」

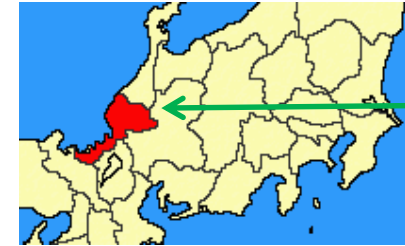


- 日本でいちばん幸福な福井です。 ※各ランキングで1位を獲得

都道府県幸福度ランキング(2016) 第1位【日本総合研究所】

子どもの幸福度(2015) 第1位【慶應大学】

日本でいちばん幸せな県民(2011) 第1位【法政大学】



ココ
です

- 社長輩出数日本一の福井です。 ※1,436人(人口10万人当たり 全国平均746人)

眼鏡、眼鏡枠の出荷額 日本一

絹織物等の出荷額 日本一

手漉き和紙の出荷額 日本一

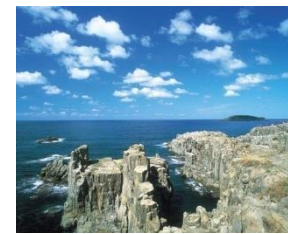


- 恐竜王国福井です。 ※国内で発掘される恐竜化石の約8割が福井県内で発見・出土

福井県恐竜博物館 年間90万人超の来館者

東尋坊 サスペンスドラマで有名

永平寺 曹洞宗(ZEN)の大本山



福井県が取り組む「交流新時代」

「東西南北に開かれた福井」に変革

- ① 新幹線の敦賀開業・小浜京都ルートの決定等を契機とした、観光、産業、まちづくり、地域交通等の各プロジェクトを推進
- ② UIターン政策、広域観光、シニア世代の二地域居住など、福井への新たなヒトの流れを創出
- ③ 平成30年に本県開催の国体・障スポの成功を契機とした、スポーツによる地域力の向上（スポーツ機運の地域定着など）
- ④ ふくいブランドの魅力発信（幸福日本一など）



福井県での政策協働プログラムの内容

①経営参画型インターンシップ

企業の経営課題に対し、新規事業や経営改善に繋がるプロジェクトの企画・立案を行う。

POINT

★単なる就業体験では得られない経験

受入企業での プロジェクトの例

- 大規模ショッピングモールでの空きテナント活用プランの企画
- 金属加工メーカーでの商品WEB販売事業の立上げ



※受入企業を現在選定中ですので、上記はあくまでも想定例です。

②地域おこし活動の企画・実践

地域おこし協力隊と協力し、地域の活性化に寄与するプロジェクトの企画・立案を行う。

POINT

- ★地域課題に応じた活性化策の企画提案
- ★地域で活躍する人たちとの交流

地域おこし活動の例

- 地域ブランドの発信
- 地場製品の開発販売
- 観光誘客策の企画実践



※受入市町を現在選定中ですので、上記はあくまでも想定例です。

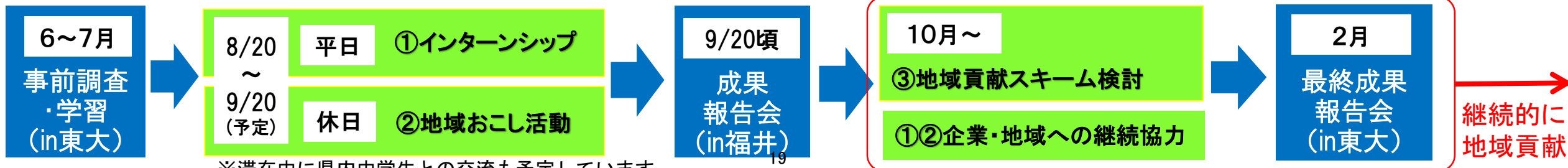
現地活動終了後

③地域貢献スキームの検討

「東京に住みながらも福井とつながり継続的に地域課題を解決するための方法」について検討・提案

①②企業・地域への継続協力

- 受入先の企業や地域への継続した提案や情報提供
- 企画案の実践への参加協力（休暇等を利用）



東京大学の学生の皆さまへ

企業で

福井県には元気な企業がたくさんあります。そういった企業では、新たなプロジェクトを始めるため、若い人材やアイデアを常に求めています。



地域で

福井県では約50名の地域おこし協力隊が活躍中です。

地域を元気にするため、更に多くの斬新な発想・熱意・行動力が必要です。



東大生の
皆さまには

社長の右腕

**地域活性化
プランナー**

としての活躍を
期待しています！



さらに

大学に戻られてからも可能な限り、福井県と繋がっていただきたいと考えています。
1か月の経験をもとに、東京大学と(東京に住みながら)福井県などの地方がつながり、
継続的に地域貢献を行うための方法(=学生版「地域おこし協力隊」スキーム)をご提案ください！

皆さまの豊かな発想力や企画力をぜひ福井県で発揮してください！



フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション
2017年4月20日(27日)



山梨県

「かがやき 安心 プラチナ社会を目指して」

- 位置について
- 自然について
- 産業について



機械電子産業を中心とした製造業

ブドウ・モモ・スモモなどの果樹

東京都に隣接



約78%が森林

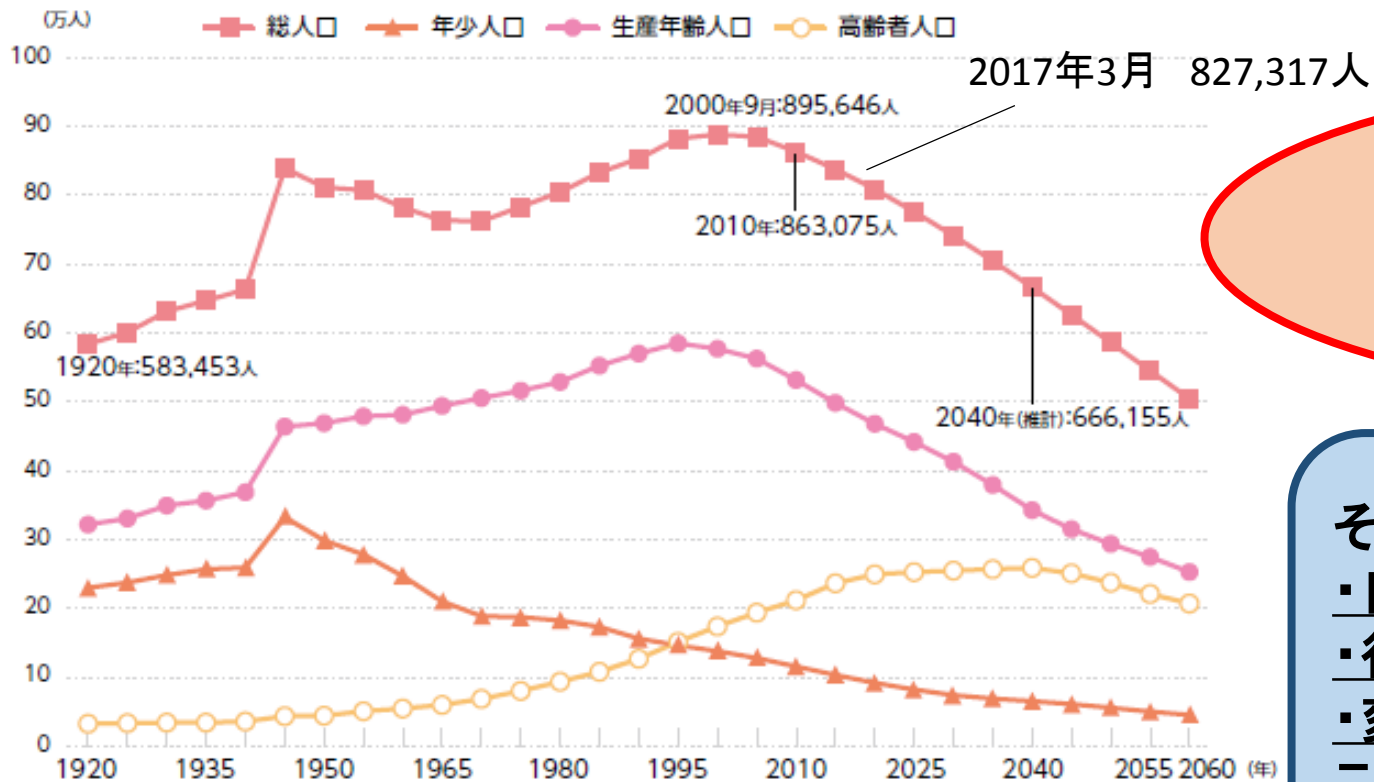


水資源が豊富
ミネラルウォーターの生産量は日本一

外国人も多い観光業

山梨県が現在取り組んでいる課題

- 背景 : 人口の減少
- 取り組み課題 : 『人口減少による負のスパイラルの克服』



急激な人口減少が、地域社会の担い手の減少や地域経済の停滞・縮小など、社会経済構造の変化を引き起こし、更なる人口減少につながるという悪循環

それぞれの地域が、
・自ら考え、
・行動し、
・変革を起こしていく
ことが求められている。



東大生と共に取り組む政策プログラム

・テーマと目標

『過疎地域における魅力の再発見と、
それを活用した地域活性化の取り組みの検討』

東京大学

- 参加学生のバックアップ
- 参加費用支援
(旅費・宿泊費・活動費)

山梨県

- 東京大学と市町村との連絡調整
- 現地調査報告会(2回)の開催

市町村・地域おこし協力隊

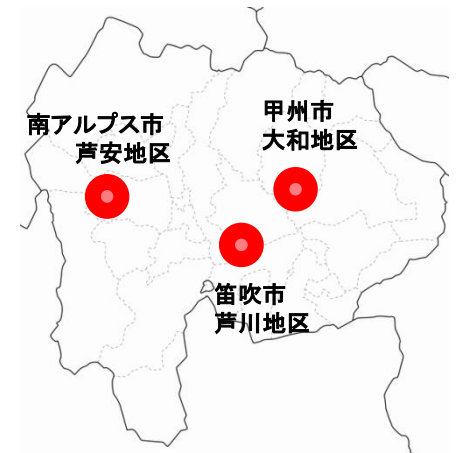
- 活動プログラムの作成
- 現地活動時の学生支援

市町村・地域おこし協力隊

- 活動プログラムの作成
- 現地活動時の学生支援

市町村・地域おこし協力隊

- 活動プログラムの作成
- 現地活動時の学生支援



東大生へのメッセージ

- 地域創生のために必要なもの

よそ者：別の視点で地域を見る

若者：新鮮な目で地域を見る

ばか者：常識にとらわれずに地域を見る

- 学生の皆さんへの期待

それぞれの地域が、自ら考え、行動し、
変革を起こしていくための起爆剤

斬新な、しかし、地に足の付いた提案を

なかなか訪れる機会
がない地域での活動を通
じて、東京では得が
たい経験を！！



長野県

フィールドスタディ型政策協働プログラム

オリエンテーション

2017年4月20日（27日）

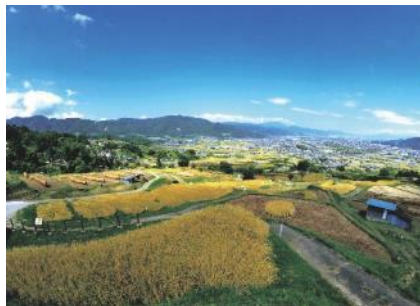


しあわせ信州

長野県キャッチフレーズ 「しあわせ信州」

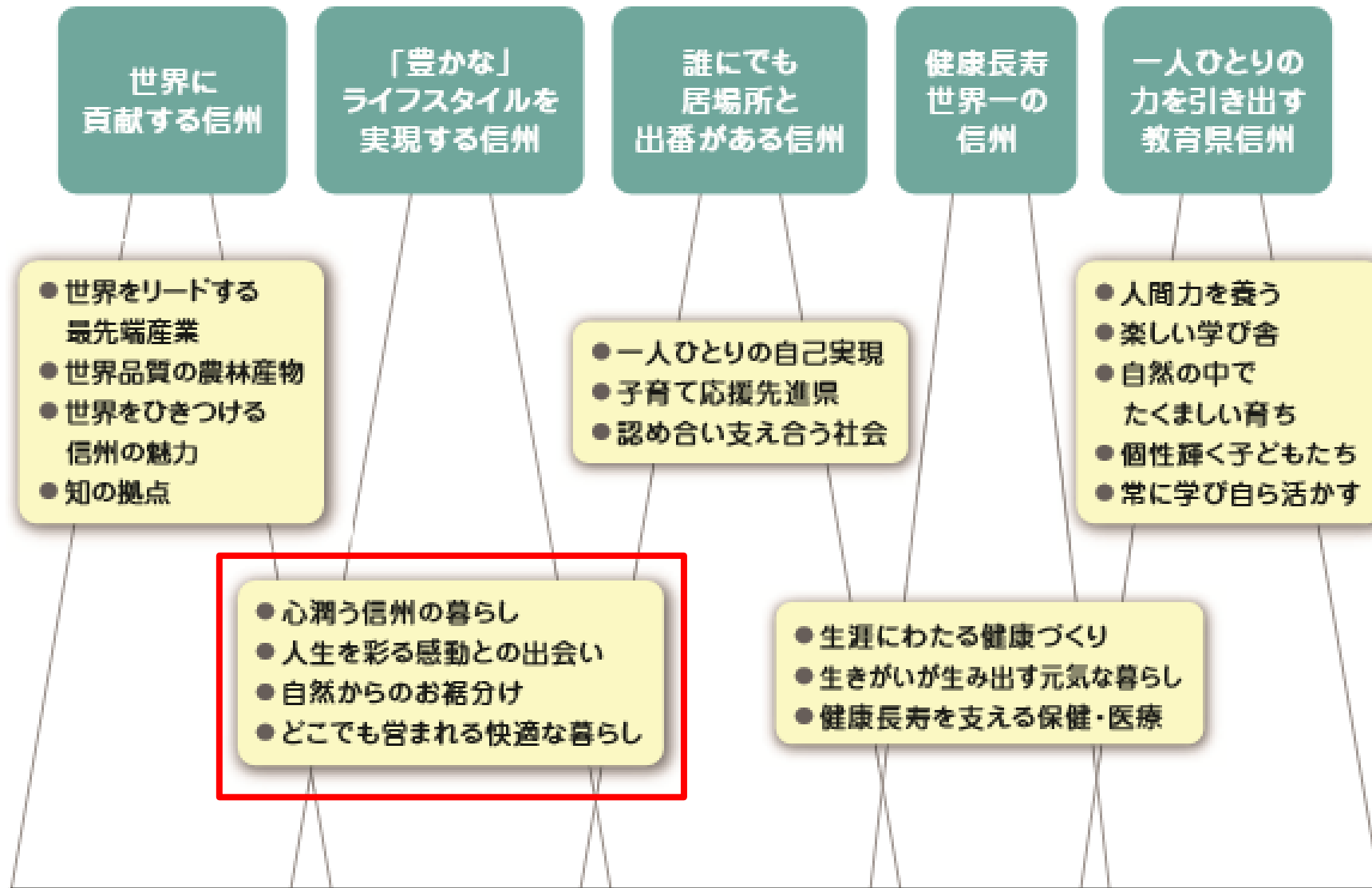
信州にあるたくさんの「しあわせ」を感じ、多くの方に
信州を好きになって欲しい。

信州が好きで多くの方と「しあわせ」を分かち合いたい。



長野県PRキャラクター「アルクマ」

長野県の将来像



長野県の取り組み課題（まちづくり分野）

●危険で狭隘な踏切の解消（街路事業）

◆危険な踏切の立体交差化・踏切幅幅を推進



（松本市（都）出川～双葉）

- ・踏切待ち時間を解消
最大33分/時間→0分に！
- ・踏切周辺事故を解消
44件/（4年間）→0件に！

●空き家対策（空き家連絡協議会設置等の取組）

◆市町村・関係団体と協働して空き家対策を推進



空き家対策セミナーの様子



あんしん空き家流通促進事業

- ・空き家対策市町村連絡会
- ・空き家対策支援協議会（専門家参画）
- ・空き家セミナー

利用可能な空き家は積極的に活用！

●次世代のまちづくりの担い手育成の取組

◆次の世代をつくる子供たちへの学習機会を創出



①担い手育成（善光寺地区まちあるき）



②環境学習（烏川溪谷緑地）

①まちづくり担い手育成
善光寺地区まちあるき

②環境学習

烏川溪谷緑地での学習会

信州の魅力を知ってもらう！

【本プログラム関連】

●まちづくりのキーマンを育成

民間主導の好事例 ～善光寺門前周辺の再生～

善光寺門前周辺では、民間主導でリノベーション手法による空き家等の再生が行われ、まちの新たな賑わいを創出しています。



この動きを県内各地に拡大させる！

【信州まちなかりノベーション推進事業（H28年度～）】

善光寺門前のような動きを県内各地に波及、活性化させるため、全国で活躍する講師を招いた講演会、県内実践者によるセミナー、空き家見学のまち歩き等を実施し、地域の「キーマン」となる人材の育成していきます。



キックオフ講演会



まち歩き（辰野町）



セミナー（松本市）

政策協働プログラム ～地域の想いをカタチに！～

ミッション：老舗温泉街の活気を取り戻せ！！

行政や温泉街で従事する方、住民、観光客等と一緒に「戸倉上山田温泉地区」の活性化について考えます！



資料調査等

まちづくりで重要なのは“**地域の想いをカタチにすること**”です。旅館経営者、行政、地元高校生、飲み屋のマスターなど、できるだけ多くの人から想いを集め、共通項はどこなのか？相反する部分はどこなのか？を整理しながらビジョンをつくっていきます。
全盛期の活気を取り戻すため、みなさんの力を貸してください！

○年間スケジュール（案）

7月～	【事前調査】 ・WEB等を使った資料調査 ・現地調査に向けた作戦会議（2～3回／東京）
8月～	【現地調査】 8/21～9/4（15日間の温泉合宿） ・戸倉上山田温泉を拠点に地域を奔走 ・様々な方の“想い”を収集 ・先進地視察あり
9月～	【分析・整理】 集まった“想い”を統計手法等を用いて分析し、論理的に整理・図化（東大生の頭脳に期待！）
2月～	【成果発表】 老舗温泉街に活気を取り戻すための方向性を提示



現地調査等

○旅館・ホテル



外国人が主人を務める旅館など

○観光業・サービス



旅館・ホテル以外のサービス

5～6つの温泉旅館に宿泊しながら様々な方にヒアリング。
（目標：5人×20人＝100人！）

○先進地域視察・調査



廃業した旅館をリノベ（渋温泉）



倉庫を事務所にリノベ（善光寺門前）

若者がゲストハウスやレストランを開業し活気が戻りつつある「湯田中・渋温泉」、古民家のリノベーションで盛り上がっている「善光寺門前」のキーマンにもヒアリングに行く予定です。
※渋温泉のゲストハウスに1泊予定

平成30年度以降、平成29年度の成果を基に具体的な活性化計画を策定していく予定です。その計画の良し悪しは今回のプログラムにかかっているとんでも過言ではありません！

簡単なミッションではありませんが一緒にいい汗をかきましょう！！

みなさんへのメッセージ

まず、みなさんをお願いしたいことは

まちを見て、感じて、触れて、まちを好きになってもらうことです！

温泉に浸かり、美味しいご飯を食べ、熱い想いを持った方々と語り合う。

きっと「戸倉上山田温泉」を好きになってくれると思います！

みなさんと一緒に活動できることを楽しみにしています！

☆アピールポイント

- ・緑豊かな自然と素敵な温泉があります！
- ・地元高校生との交流会もやりたいと思います！
- ・8月～9月は桃、梨、ぶどうがめちゃくちゃ美味しい季節です！
- ・長野県内の観光地を案内しちゃいます！





フィールドスタディ型政策協働プログラム
オリエンテーション
2017年4月20日・27日

第27回全国菓子大博覧会・三重



お伊勢さん菓子博 2017
27th National Confectionery Exposition in Mie



2017年4月21日(金)～5月14日(日) 開催

会場:三重県営サンアリーナ及びその周辺 主催:第27回全国菓子大博覧会・三重 実行委員会

実はそれ、ぜんぶ三重なんです！



南部地域の活性化に向けた取組



【三重県南部地域の現状と課題】

- 若者世代の人口流出と高齢化により集落機能の維持が困難になる地域が増加
- 財政基盤の脆弱な市町が多い
- 世界遺産熊野古道伊勢路をはじめとした地域の資源や魅力が豊富



南部地域活性化局(組織)と南部地域活性化基金(予算)を設置し、定住の促進や働く場の確保に向けて市町が連携する取組を支援

住み続けたいくなる取組



南部をめぐるバイク旅促進

暮らしたくなる取組



地域の企業見学ツアー

定住促進に向けた
3つのアプローチ

戻りたくなる取組



子どもの地域学習



登録有形文化財「土井見世邸」を活用した起業モデル構築による空き家資源化の促進

(活動場所:尾鷲市朝日町、滞在期間:3~4週間)

【課題と取組方向】

- 人口減少に伴う空き家の増加
- 関係法令(耐震化等)との調整
- 維持管理に係るコスト



定住移住コンシェルジュ(地域おこし協力隊)

空き家が地域を元気づける資源となることを提示したい!

- 空き家バンクとしての活用
- 起業促進による資源化
- 成功実績の積み重ね

【プログラムの具体的内容】



空き家の規模、持ち主の状況等に応じた多様な空き家活用モデルの提案



空き家モデルの事例収集、分析、マニュアル化・冊子化



熊野古道沿いの登録有形文化財候補建造物の調査・把握

「土井見世邸」とは？

尾鷲有数の山林経営家、土井家の住宅で、主屋は昭和6年に建築された和風モダニズムの住宅。東西に長く、東端の玄関周りを洋風意匠として脇に応接間を付属し、西側は和室で、数寄屋風の座敷等を並べている。

敷地内には、土蔵や納屋、外便所や井戸屋形といった付属建物もまともに残っており、山林経営家の風情あるたたずまいを今に残す貴重な建物群として、平成27年8月に国登録有形文化財に登録された。(参考: http://www.city.owase.lg.jp/contents_detail.php?frmId=13066)



【東大生に期待したいこと】

登録有形文化財「土井見世邸」を活用して、どのような起業が可能か、所有者や地域おこし協力隊と連携・協働しながら考えて下さい!

漁村の未来をつくる市民大学設立の支援

(活動場所:尾鷲市九鬼町、滞在期間:3~4週間)

【課題と取組方向】

尾鷲市九鬼町とは？

人口約470人で、うち64%の約300人が65歳以上の高齢者である過疎高齢化が進んでいる町。玄関を開けると海が広がっているといってもいいように、複雑に入り組んだリアス式海岸の好漁場に面した漁業の町で、ブリ・サバ・アジ・イワシなどが水揚げされる。

飲食店が一軒もない状態だったが、地域おこし協力隊と地域住民が連携し、空き店舗を改装して、地元で水揚げされる魚をメインとした地産地消の食堂「網干場(あばば)」を平成27年4月にオープンさせた。



食堂「網干場」



移住体験住宅「みやか」



来訪者に九鬼町のことをより深く知り、関わりたいという動機を持ってもらう場や機会が必要！

【プログラムの具体的内容】

市民大学の設立(地域と大学との双方向の学びの場)



- 「漁村×学術シンポジウム」の開催
- 観光客以上、移住者未満である広い意味での「学生」の誘致



【東大生に期待したいこと】

地域住民や地域おこし協力隊と交流する中で、九鬼町のような「漁村」から何を学ぶことができるか、どのような学術的知見が「漁村」に新たな動きをもたらすかなど、市民大学のコース設計や運営体制の策定などに関わってください！

東大生へのメッセージ

東大生のみなさんへ

今回のフィールドスタディの現場である三重県尾鷲市は、普段、東京で暮らすみなさんからは想像もできないほどの田舎かもしれません。

でも、だからこそ、東京では得ることができない経験、感動がそこにはあります。尾鷲市でしか経験することができないプログラムを準備して、みなさんをお待ちしています！

- ◆ 地域おこしや過疎地域の活性化に関わりたい方
- ◆ 文化財や地域の歴史、文化に興味がある方
- ◆ 自然豊かな地域での暮らしにあこがれている方
- ◆ 地域と大学との連携について研究したい方
- ◆ 地域の人びととの出会いや交流を広げたい方
- ◆ おいしい魚が食べたい方



・・・などなど、1つでも当てはまる方はぜひ参加してください！

鳥取県

フィールドスタディ型政策協働プログラム

オリエンテーション

2017年4月20日(27日)



鳥取県「小さくても勝てる」

～若者が活躍する鳥取県～

『トリクミ』代表 古田 琢也さん(八頭町／東京都) → <http://torikumi.co.jp/>

○東京でアートディレクター、デザイナーとして活躍する傍ら、故郷の八頭町で、
鳥取を元気にしたい」地元の仲間と一緒に『トリクミ』を結成。

⇒東京と鳥取のネットワークを活かし、イベントの企画や商品開発・販売などを実施。

⇒クラウドファンディングを活用し、カフェ「HOME8823(ホームはやぶさ)」、ゲストハウス「BASE8823(ベースはやぶさ)」
は、田舎エンターテインメントの拠点に。

株式会社『西河商店』代表、元関金温泉の若女将 西河 葉子さん(倉吉市) → http://tottoriongaeshi.com/?page_id=583

○2013から地域おこし協力隊として、老舗旅館を地域の交流拠点として復活させるなど、主に関金温泉の振興に尽力

○2016年6月に協力隊の任期を終了し、「株式会社 西河商店」を設立。

⇒ 特産「関金わさび」等の卸売り及び加工販売を行い、地域の雇用創出にも貢献。



～鳥取県発の新たな取組～

「とっとり」とプロジェクト(2014～全国初) → <https://bla.bo/teams/tottori>

全国からネット上でアイデア募集「鳥取県内企業」と「全国の生産者」が一緒になって取り組む「未来型の新商品づくり」
鍋用の薄切りもちが、新商品「毎日がもちようび」に 全国からのアイデアで売上げが5倍に

全国に広がる自然を活かした保育「森のようちえん」

四季折々の自然の中で保育する「森のようちえん」が鳥取県智頭町に開園(2009～)

→ 現在県内8園に拡大。自然を活かした保育は県外からも注目 (2016.4.1現在 利用者 103人のうち移住者18人)

鳥取県の課題

人口減少が進み、2007年度に人口が60万人を下回る状況。（2015年国政調査 県総人口 57万3千人）

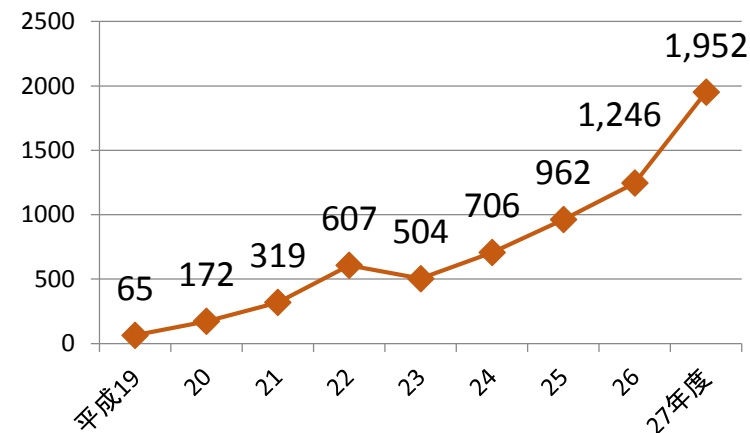
◇移住定住6千人の実現

[目標] 2015～2019年度までの5年間でIJUターン6,000人

[主な取組] 相談・情報発信体制の充実（サポートセンター設置、相談員設置、住宅バンクシステム運用）
市町村の取組強化への支援（空き家改修、お試し住宅設置等の支援、受入れ体制づくり）
→ 移住者目線での支援拡充

[成果] 2009～2014の6年間の移住者数 4,344人 ⇒ **全国1位**
2015～2016上半期までの移住者数 2,868人（2016上期 916人）

移住者数の推移



⇒ 生涯活躍のまち（CCRC）の推進

[目標] ・アクティブ・シニアから晩年のシニアまで、充実した生活と安心して暮らせる町をつくる。
（健康寿命＋地域への貢献）
・地域が抱える課題の解決へとつながる人材の誘致
・現在お住まいの町民の方々も利益共有できる環境づくり。



**鳥取県湯梨浜町では、
2016年12月に「まちづくり会社」
を設立し、取組を推進。**

◇少子化対策の強化 ⇒ 子育て環境日本一

[主な取組] 中山間地域市町村保育料無償化モデル事業(2014～) → **中山間地域へ子育て世代の呼び込み**
第3子以降保育料無償化 → **所得制限・年齢制限なしで第3子以降の保育料が無償**
子どもの医療費助成 **(都道府県レベルでは全国初)**
自然を活用した特徴的な保育「森のようちえん」

[成果] 合計特殊出生率の回復 2008：1.43(全国17位) → **2015：1.65(全国7位)**

東大生と共に取り組む政策プログラム①

(CCRCの先進事例を学ぶ湯梨浜町まちづくり(株)への活動参加)

【活動地域】 鳥取県湯梨浜町

【目 標】 CCRCの形成に向け、まちづくりの提案とアクティブシニア(元気高齢者)等を呼び込むための地域の魅力の情報発信

【活動内容】

- ・地域資源の点検と地元住民のニーズ把握・分析
- ・多世代交流拠点の創出と交流メニューづくり
- ・交通調査、交通ネットワークなどの仕組み提案
- ・移住に結びつけるための働き方、仕事の提案、アプローチ方法
- ・大都市のアクティブシニア等への情報発信の検討・効果の測定、移住に結びつけるための企画支援 など

【滞在期間の想定】 2週間～1ヶ月

【参 考】 湯梨浜町のCCRC

生涯活躍のまち実現に向けた重点課題のイメージ



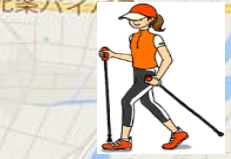
http://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1039980/moderupuran_yurihama.pdf

湯梨浜町をモデルとしたCCRCのイメージ

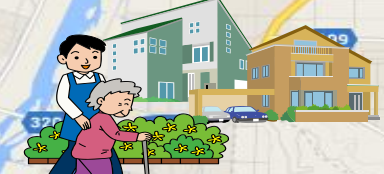
- ・アクティブ・シニアから晩年のシニアまで、充実した生活と安心して暮らせる町をつくる。(健康寿命+地域への貢献)
- ・地域が抱える課題の解決へとつながる人材の誘致
- ・現在お住まいの町民の方々も利益共有できる環境づくり。



ハワイ信生苑
グループホーム信生ゆりはまの里
はわいグループホームあずま園
シニアコートゆりはま
アロハデイサービスセンターあずま等



ノルディックウォーキング



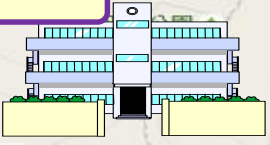
住環境

- ・高齢者住宅の整備
- ・町営住宅建替えによる多世代集住地域 など

継続的なケアの提供

藤井政雄記念病院
倉吉病院 等

Googleマップを加工



アクティブシニアの大学の利用・指導と交流

鳥取短期大学
鳥取看護大学



旅館団地

旧ミドーレイク
ホテル跡地



町立中央公民館

松崎地区
町営住宅



東郷エリア



まちの保健室出張所

仕事情報、活動情報の
提供機能



和菓子屋、語学教室、
婚活機能等シニアの活躍の場



泊エリア



湯梨浜町役場
泊支所
中央公民館
泊分館



グラウンドゴルフ

各エリアを
ネットワーク化



コミュニティ拠点
※東郷地区、羽合地区など複数候補地



鉢伏山

東大生と共に取り組む政策プログラム②

(まちなか生活実態調査)

人口減少や高齢化の進行により、県内4市の「まちなか」において買い物弱者や空き家の増加、災害時における不安の拡大などが、顕在化しつつある。このため、まちなかに居住する住民の生活実態調査を実施。

⇒⇒ 今後のまちなか振興対策につなげる。

【活動内容】

- 個別世帯への聞き取り調査(フォロー調査)の実施
- 調査結果を受けての分析 等

【滞在期間】

2週間程度

まちなか生活実態調査について

■調査対象

鳥取県内4市(鳥取市、倉吉市、米子市、境港市)のうち抽出した世帯及び全自治会

■調査項目

世帯の状況、住まい、くらしの安心、生活環境(交通、買い物、医療)、コミュニティ、居住に関する今後の意向、困りごと、不安 など

■主な視点

<まちなか> 交通・買い物などの生活困難度等

<マンション> マンション居住を選択した理由やコミュニティの現状等

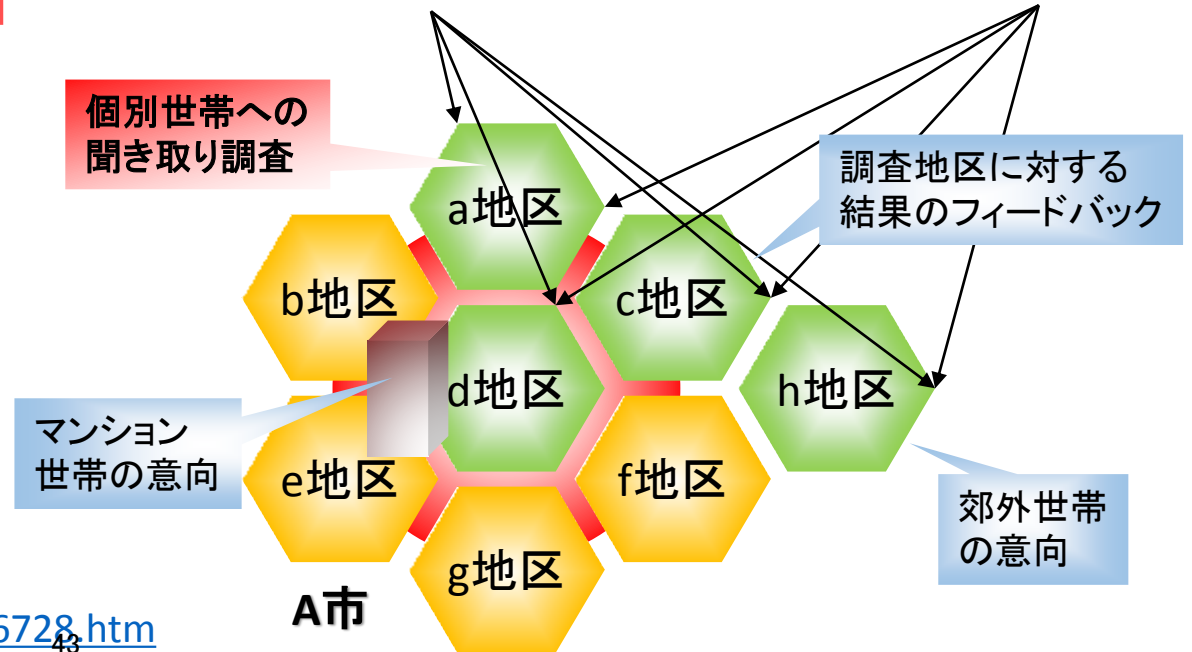
<郊外> 郊外に居住している理由等

世帯調査

各世帯へのアンケート。
調査地区については、各市と調整。
(例: 中心市街地、郊外団地など)

自治会(町内会)等調査

各自治会(町内会)等の代表者
に対するアンケート。



東大生への知事からのメッセージ

- 小さくても勝てる。人口最少県だからこそ、鳥取県にできる事があるはず。そんな信念で改革をリードします。
- 中山間地の保育料無料化や都市部も含めた第3子無料化に加え、今年度から在宅での保育にも7割の自治体が支援金を導入するなど、少子化対策に切り込み、出生率は1.65に急成長。昨年度も人口最少県ながら移住者2千人を越え、全国トップクラスを記録しています。
- 全国で初めて手話言語条例を制定した波は全国各地へ広がり、県内に就職する学生には奨学金返還免除制度を全国に先駆けて導入しました。
- 12年に1度の酉年。ぜひ鳥取でとびっきりの挑戦をして下さい。

高知県

フィールドスタディ型政策協働プログラム

オリエンテーション

2017年4月27日

高知が誇る4つの日本No.1



人口

728,461人 全国第45位

※平成27年国勢調査

気候

年間日照時間2,000時間
(全国1位レベル)

森林率

84%
(全国1位)

①食

おいしい食べ物
ランキング日本No.1



②自然

水質日本No.1の
清流と日本三大清流



③歴史

人気日本No.1の
歴史上の人物と
日本三大夜城



④よさこい

世界に広がる
人気日本No.1の祭り



高知県が現在取り組んでいる政策課題

人口の増加

若者の定着・増加

出生率の向上

人口減少の
負のスパイラル

経済規模の縮小
若者の県外流出

過疎化・高齢化の
同時進行による孤立化

特に
中山間地域の衰退

少子化の
加速

さらなる
人口減少の危機！

産業振興計画により推進

A

経済を活性化させ
雇用を創出する

B

若者の県外流出の防止
県外からの移住者の増加

D

希望をかなえる
「結婚」「妊娠・出産」「子育て」

C

特に、
出生率が高い傾向にある
中山間地域の若者の増加

東大生と共に取り組む政策プログラム

(名称①集落活動センターの活動に関するフィールドワーク)



【活動地域】 高知県内の集落活動センター

【プログラムの目標】

高知県内の集落活動センターの活動に対する提案

【東大生が行う予定の活動内容】

- ・ 中山間地域の住民が安心して暮らしていくための活動拠点「集落活動センター」における福祉や産業・防災などの活動の体験を通じて、地域住民の活動の活性化に向けた提案を行う。



【活動期間】

大学夏季休業期間中の1～2週間程度を想定



※「集落活動センター」については、以下のサイトを参照ください

・ 集落活動センターポータルサイト「えいとこうち」：<https://www.eitoko.jp/>

・ まち・ひと・しごと創生本部「小さな拠点」紹介ページ：<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/chiisanakyoten/index.html>

東大生と共に取り組む政策プログラム

(名称② 1次産業と2次、3次産業の連携体制づくり)



【活動地域】 佐川町

【プログラムの目標】

佐川町で進めている林業×ものづくり×観光の連携体制づくりに向けた提案

【東大生が行う予定の活動内容】

- ・ 自伐型林業（素材生産）、デジタルによるものづくり（加工・販売）、観光事業（流通・販売）の体験を通じて、それぞれの課題を整理、隘路を明確化し、連携体制の提案を行う。

【活動期間】

大学夏季休業期間中の1～2週間程度を想定



東大生と共に取り組む政策プログラム



(名称③越知町キャンプ場を核とした地域活性化)

【活動地域】 越知町

【プログラムの目標】

越知町に開設するスノーピーク監修のキャンプ場利用者をターゲットとした地域活性化の実践モデルの提案

【東大生が行う予定の活動内容】

キャンプ場利用者のニーズや消費動向、先進事例等の調査を行い、調査結果を踏まえた実践的な地域活性化モデルの提案を行う。

【活動期間】 大学夏季休業期間中の1～2週間程度を想定



自然の神秘と歴史浪漫
あふれるまち越知町

東大生へのメッセージ

- 高知県では「人口減少の負のスパイラル」という課題に正面から向き合い、県勢浮揚に向けた様々な取り組みにより、長年減少傾向にあった各分野の産出額等が上昇に転じるなど成果が表れてきています。
- 全国にさきがけて人口減少に立ち向かってきた「課題解決先進県」高知県の取り組みに参画していただき、今後、日本全国で活躍される皆さんにとって、課題解決に向けた活動を経験する良き機会となればと考えています。
- 地域の方と地域の活性化に向けて一緒に取り組む学生の皆さんの参加をお待ちしています！



日本の
ひなた
宮崎県

「日本のひなた」 宮崎県

人口約 1 1 0 万人
(全国の約 1%)



○ 温暖な気候

平均気温：全国 3 位

日照時間：全国 3 位

快晴日数：全国 2 位

○ 豊かな自然

緑豊かな山々と美しい海岸線
(県土面積の 7 5 % が森林、4 0 0 km の海岸線)

○ 安全・安心でおいしい食材

地鶏・マンゴー・宮崎牛など美味しい食材の宝庫



受入
チーム数
日本一

Jリーグキャンプ

宮崎県内では1~3月にかけてJリーグチームがキャンプを実施しています。例年20チーム前後を受入れ、受入数日本一となっています。



出荷量
日本一

宮崎の本格焼酎

宮崎の焼酎は、芋・米・麦・そば、さらには栗など原料が多彩であることが特徴です。宮崎県産の出荷量は2年連続で日本一を誇っています。

「宮崎の本格焼酎」は宮崎県産の本格焼酎の総称で、地域団体商標（地域ブランド）として特許庁に登録されています。



出荷量
日本一

ブロイラー

ブロイラーは安くて質の良いタンパク質のとれる魅力的な食材で、宮崎県の出荷量は全国の約2割を占めています。



日本一
多

国指定
重要無形民俗文化財
神楽

神楽は五穀豊穡や豊漁（豊猟）を感謝し、1年の生活の安定を祈る集落の祭りで、国の重要無形民俗文化財に指定されている神楽の数は全国一となっています。

綾町（宮崎県）

綾町は、宮崎県のほぼ中央、宮崎市の西隣約20 kmに位置し、人口約7,300人、町の総面積の約80%を森林が占める中山間地域の小さな町です。

照葉樹林の保全や、有機農業、手作り工芸など町づくりの取り組みが評価され、2012年にユネスコエコパークに登録されています。



ところが…！

「ユネスコエコパーク」自体の知名度が非常に低いため、住民が期待する地域経済活性化の効果が薄い状況にあります！

照葉樹林

自然生態系農業

スポーツ合宿



エコパークの3つの機能

保全

学術研究
支援

利用

学術的研究支援

持続可能な発展のための調査や研究、教育・研修の場を提供している

生物多様性の保全

人間の干渉を含む生物地理学区域を代表する生態系を含み、生物多様性の保全上重要な地域であること

経済と社会の発展

自然環境の保全と調和した持続可能な発展の国内外のモデルとなりうる取組みが行われていること



綾の町づくりの理念・実践

合致

ユネスコエコパークの理念

自然と人間社会の共生

生態系の保全と持続可能な利活用

綾町の課題

ユネスコエコパークは

「**自然環境**」と調和した「**人間社会**」の持続可能な発展のモデル地域であります。残念なことに非常に**知名度が低く**、そのモデル展示効果が発揮できていません！

かといって、世界遺産のように膨大な**宣伝広告**を手がける予算もありませんので、**知名度UP**の手立てがなく、困っています

《皆さんと一緒に考えたいこと》

◎「自然と人間社会の共生のモデル地域」としてユネスコエコパークの**知名度を高め**、その共生モデルを世界中に**拡散**していくにはどうすればいいのか？（イベント？インターネット？…）

◎綾町もモデル地域とはなっていますが、「人と自然の共生」の理想を追い求める意味では、まだその**途上**にあります。今後さらにモデル地域としての効用を発揮していくためには、どのように取り組んでいく必要があるのか？

◎どうしたら大学や研究機関等に多様な切り口での**調査研究フィールド**として活用していただき、持続可能な地域社会文化経済の発展に生かせるのだろうか？

《現地活動について》

(1) 人数：2名程度

(2) 現地活動期間：2週間程度

(3) 現地活動内容

- ・綾町の自然や伝統、文化、社会、経済の状況を知って頂きます。
- ・ユネスコエコパークとは何なのかを知って頂きます。
- ・ユネスコエコパークの知名度UP等の作戦を練って頂きます。

椎葉村（宮崎県）



人口・・・2,798名

宮崎県北西部、九州山地の中央に位置し、総面積537.29km²と广大で、その96%を山林が占め、地形は1,000mを越える峻険な九州山脈に抱かれ傾斜地が多く、集落はその山間に点在している自然豊かな中山間の村です。

また、平家落人伝説を伝える村であり、現在でも独自の文化を維持し、神楽、臼太鼓踊、ひえつき節をはじめとする民謡、民話等、古くから伝わる慣習や伝統文化を大切に継承しています。



映画になりました！



親の愛情を知らずに育ち、女性や老人だけを狙った通り魔や強盗傷害を繰り返してきた伊豆見翔人（林遣都）。

人を刺し、逃亡途中で迷い込んだ宮崎県の山深い椎葉村で怪我をした老婆スマ（市原悦子）を助けたことがきっかけで、彼女の家に寝泊まりするようになった。

初めは金を盗んで逃げるつもりだったが、伊豆見をスマの孫だと勘違いした村の人々に世話を焼かれ、山仕事や祭りの準備を手伝わされるうちに、伊豆見の荒んだ心に少しずつ変化が訪れた。

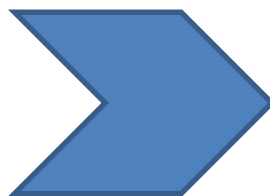
椎葉村の課題：持続可能な社会に向けてのモデル構築

《背景》

大幅な人口減少

2803人(2015)→574人(2060)

- ・産業の衰退
- ・集落機能の維持
- ・伝統文化継承
- ・国土保全 etc...



《現在の取組》

- ・資源の新たな活用への取り組み
- ・テレワークなどの働き方改革
- ・外部人材との協働による地域づくり
- ・秘境ならではの観光

《皆さんと一緒に取り組むプログラム》

全国の中山間地域は同じ状況であるが、人だけでなくソトに出ているお金などを一部でも地域循環させれば解決の糸口になるのでは？

《現地活動について》

人数：5名

現地活動期間：2週間程度

- 活動内容：①地域の継承と創造をメインテーマとした地域おこし協力隊との協働
(椎葉百姓なりわい塾、空き施設利活用、木業化プロジェクト等)
- ②小水力発電での地域循環エネルギー活用などによる地域活性化
(発送電分離時代を見据えた電力の活用)
- ③中学生や若者が行っているみらい創り活動への参加
(コミュニケーション技術による自己の思いの深掘りからの創造)

【目標】

これからの日本の地方部のあり方の
モデル化



肥薩おれんじ鉄道
川内駅(鹿児島県)～八代駅(熊本県)

鹿児島県

フィールドスタディ型政策協働プログラム

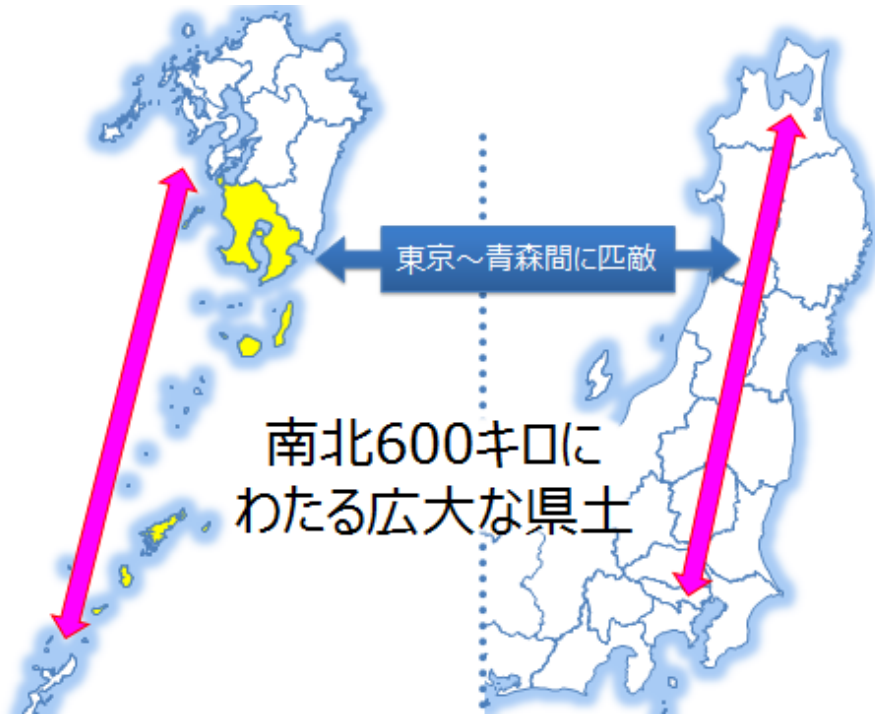
オリエンテーション

平成29年4月20日・27日





鹿児島県「新しい力強い鹿児島を目指して」



有人離島数: 26

自然環境

- 太平洋と東シナ海に囲まれた南北600キロにわたる広大な県土
- 気候区: 温帯～亜熱帯, 年平均気温18.8℃
- ◎ 年間降水量3,664mm 全国第1位
- 11の活火山～豊富な温泉
- ◎ 温泉源泉数2,773 全国第2位

人口・経済など

- 市町村数: 43 (19市20町4村)
- 総人口: 1,648千人 (H27国調)
- 県内総生産: 53,303億円 (H26年度)
- ◎ 実質経済成長率: △0.3% (H26年度)
- 1人当たり県民所得: 2,389千円 (H26年度)
(1人当たり国民所得: 2,868千円) (H26年度)

農業
産出額

4,435億円
全国第3位
(H27年)

林業
産出額

105億円
全国第11位
(森林・林業統計要覧2016)

海面漁業・
養殖業
生産額

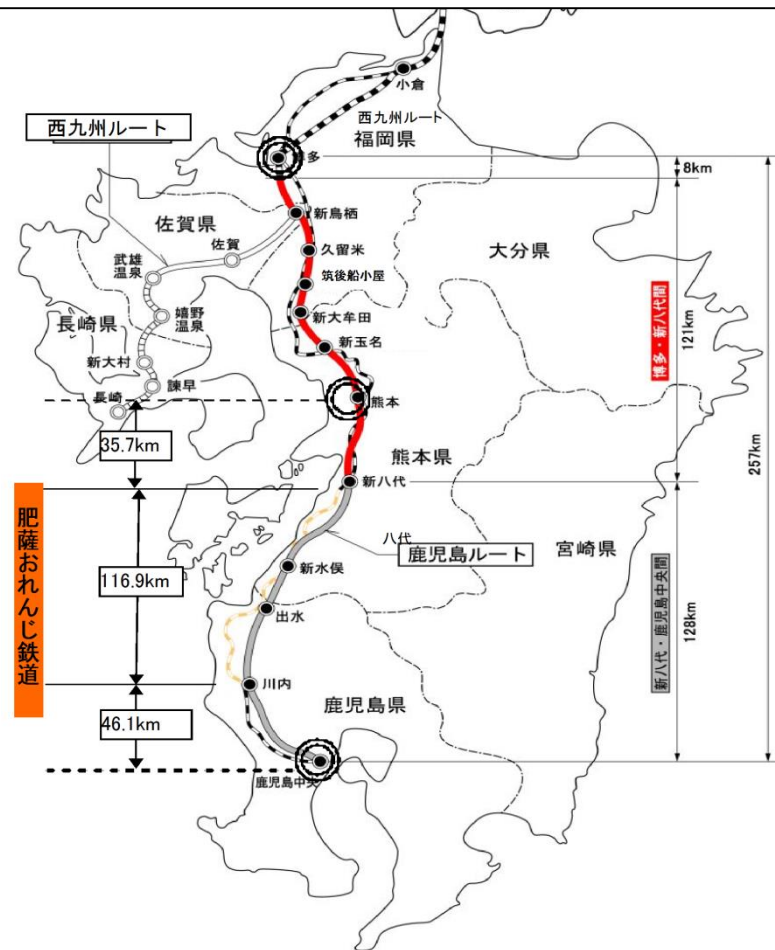
799億円
全国第4位
(H26年)

肥薩おれんじ鉄道の概要

<現状・課題>

- ・九州新幹線(鹿児島ルート)の部分開業に伴い、JR九州から経営分離された鹿児島本線の八代～川内間を、熊本・鹿児島両県合同で引き継ぎ、第三セクター方式の並行在来線として平成16年3月13日開業
- ・開業1年目から経常損失が発生し、平成27年度決算の減価償却前損益は4億86百万円の赤字を計上
- ・厳しい経営状況にあるため、両県及び沿線自治体が鉄道基盤整備費用等に係る経費を支援している。

1 会社名	肥薩おれんじ鉄道株式会社
2 設立年月日	平成14年10月31日
3 開業日	平成16年 3月13日
4 本社所在地	八代市萩原町1丁目1番1号
5 資本金	15億6千万円
6 出資	熊本県 (39.8%)、鹿児島県 (39.8%) 沿線市町 (14.0%)、JR貨物 (6.4%)
7 社員数等	代表取締役社長 田嶋徹(熊本県副知事) 社員数138名 (H29.4.1.現在)
8 営業区間	八代駅～川内駅 116.9km, 28駅
9 車両数	ディーゼル車両19両, ワンマン運転



肥薩おれんじ鉄道の利用状況の推移等

<現状・課題>

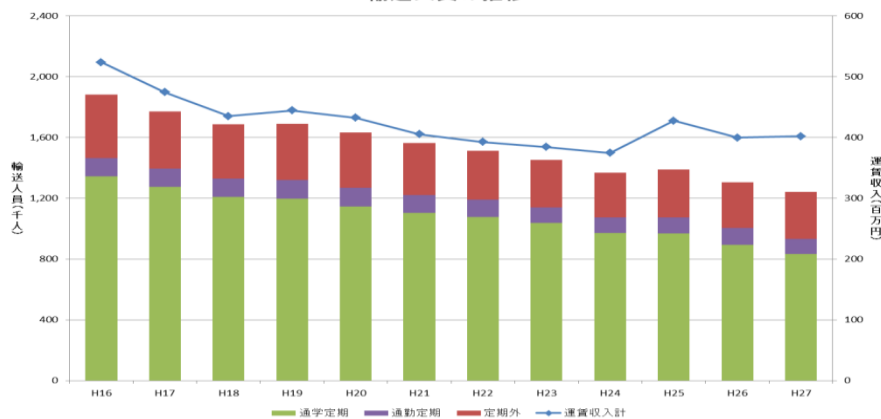
- ・ 少子高齢化による人口減少等により、平成27年度の輸送人員は124万3千人（開業時の2／3に減少）
- ・ 県及び沿線市等で構成する県肥薩おれんじ鉄道利用促進協議会において、マイルール意識の向上や利用促進に取り組んでいる。

輸送人員と運賃収入

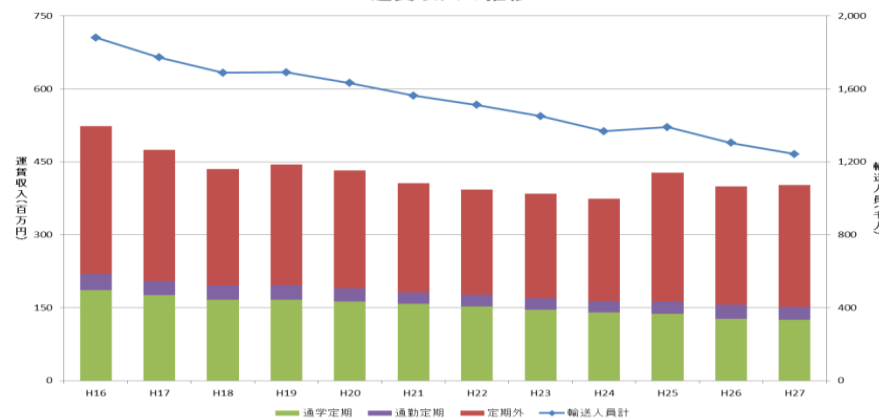
(単位：千人、百万円)

区分	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
輸送人員計	1,881	1,772	1,688	1,690	1,631	1,563	1,512	1,450	1,367	1,390	1,304	1,243
対前年比	—	94.2%	95.3%	100.1%	96.5%	95.8%	96.7%	95.9%	94.3%	101.7%	93.8%	95.3%
運賃収入計	524	474	435	445	432	406	392	384	374	427	400	402
対前年比	—	90.6%	91.7%	102.2%	97.2%	93.8%	96.8%	97.9%	97.5%	114.2%	93.5%	100.6%

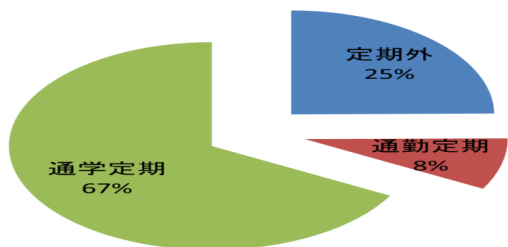
輸送人員の推移



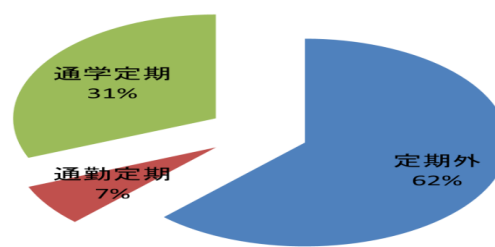
運賃収入の推移



輸送人員(H27)



運賃収入(H27)



<目標>

肥薩おれんじ鉄道の果たす役割を整理し、地域で支えていく将来像を地域住民と共有する。

取組の内容

- (1) 活動内容 アンケート調査等を通じて、肥薩おれんじ鉄道が地域にもたらすメリット(役割)を整理するとともに、鉄道の利用促進(=地域へのメリットの拡大)の方策を検討し、地域住民等に向けて提言する。
- (2) 活動地域 阿久根市ほか(予定)
- (3) 活動期間 2週間～(要相談)

【役割の整理(例)】

	本質的な役割	付随的な役割
おれんじ利用者	・日常の交通手段 (生活の足)	・観光資源(観光列車) ・観光客の交通手段
利用しない人	・貨物物流ネットワークの維持 ・災害時等のリダンダンシーの確保	・九州新幹線がもたらす便益の享受

肥薩おれんじ鉄道の果たす役割を整理(左図)

事前調査

(例)過去調査の整理, 全国鉄道の事例収集

現地調査

(例)アンケート, 乗降調査, 社員等へ聞き取り

提言(地域住民, 行政, 社員へ向けて)

東大生へのメッセージ

- 鹿児島県では、これまで「肥薩おれんじ鉄道」の利用促進に向けて、様々な施策を実施してきましたが、沿線人口の減少等が進む中で、利用者の減少が続いています。
- 地域鉄道が地域にどのような役割を果たしているか、地域住民に理解してもらうことが、地域鉄道を今後も支えていく上では非常に重要だと考えています。
- 「肥薩おれんじ鉄道を生かした地域づくり」に対して、皆さんのフレッシュな視点で、新たな着想が生まれ、地域課題を解決する一助となることを期待しています。
- 皆様のご応募、お待ちしております！